

別紙様式2

平成25年度「使える英語プロジェクト事業」公開授業および研究協議の要旨

市町村名 高槻市  
実践研究校名 高槻市立五領中学校

【公開授業】公開日：平成 25 年 11 月 27 日

対象学年：中学校1・2・3年生

<p>(教材・教科書名) NEW CROWN (単元名) (中1) Lesson6 友だちを紹介しよう (中2) Lesson4 自分の町を紹介しよう (中3) Lesson5 日本文化を紹介しよう</p>	<p>(本時の指導の目標) (中1) 友だち紹介の文に、グループの人からアドバイスをもらい、1文追加する。 (中2) 自分たちの町をA L Tで紹介する文に、受動態を使った1文を追加する。 (中3) A L Tへ日本文化を紹介する文に、関係代名詞を使った文を追加する。</p>
---	--

(本時の授業において工夫した点)

(中1)

- ・ 「一人で考える(ソロ)→グループで考える(コミ)→一人で考える(ソロ)」という学習スタイルを取り入れた。
- ・ 三人称単数現在形の定着をはかるため、チャンツ、4人班活動、個人での振り返りを行い、活動にバリエーションを持たせた。
- ・ 生徒のモチベーションが上がるように、A L Tのモデルを提示した。

(中2)

- ・ 「一人で考える(ソロ)→グループで考える(コミ)→一人で考える(ソロ)」という学習スタイルを取り入れた。
- ・ 小中連携の観点から、小学生が作成した文章を中学2年生バージョンに仕上げる活動を取り入れた。

(中3)

- ・ 「一人で考える(ソロ)→グループで考える(コミ)→一人で考える(ソロ)」という学習スタイルを取り入れた。
- ・ 関係代名詞の定着をはかるため、クイズ、4人班活動、個人での振り返りを行い、活動にバリエーションを持たせた。
- ・ I C Tを活用し、視覚に訴えるよう心がけた。

(授業を終えた教員の感想)

(中1)

- ・ スモールステップで作業に取り組んだので、生徒が無理なく文章を作成できた。

(中2)

- ・使用する受動態は難しそうだったが、生徒の紹介文に使いそうな3文にしぼったことで、ほとんどの生徒が受動態の文を追加することができた。

(中3)

- ・日本語から英文を作成する際、関係代名詞の文を作ることが難しそうだったが、ICT教材や様々な例を提示することで、生徒が無理なく文章を作成することができた。

#### 【研究協議会】

(テーマ) 子どもたちがめあてに向かって、主体的に学びあう中で、 考えを深められていたか。	(指導・助言者) 高槻市教育センター 指導主事 高谷 陽子
---	-------------------------------------

(研究協議で出された意見)

(中1)

- ・「友だち紹介」というトピックがおもしろい。
- ・作業の進行に生徒によって差が生じたが、教師が適切に支援をしていた。
- ・チャンツが、文法の定着に有効だった。
- ・活動をする前に、評価基準を提示する方が良かった。

(中2)

- ・ALTへ紹介するという目的がはっきりしていた。
- ・地域に関する取り組みだったので、課題が生徒にとって身近に感じられた。
- ・学力に課題のある生徒に教師が声をかけ、教師と生徒の人間関係の良さが出ていた。
- ・小学校での同様の取り組みを紹介し、そこからレベルアップを図るというアプローチで、小中の連携が活かされていた。

(中3)

- ・めあてがはっきりと提示されていた。
- ・書画カメラ、パワーポイントなどスクリーンでの映像が有効だった。生徒の注意を引き、また教師の書く時間と手間を短縮できた。
- ・ソロコミーソロの学習スタイルがよかった。

(まとめ)

1. 小中で連携したカリキュラムを作成し、つきたい力をあらかじめ設定した上で、単元というまとまりで指導案を考えることができた。
2. 外国語の能力には、言語(英語)が使えるために必要な態度と能力、双方の育成が望まれる。「態度」には、外国人と臆せず話す態度から相手を説得するまで、様々な段階があり、また論理的に話を進めるテクニックも欠かせない。この「態度」は、英語だけに留まらず、五領中学校区が目標とする、コミュニケーション能力へと通じる。
3. 自分の考えを伝えるためには、「聴く力」を育てることも大切である。聴くことはコミュニケーションの基本である。その上で、生徒が自分の言葉で発信できるような「能力」を3年間できちんと育てることが重要である。生徒にとって英語を通じて「できた」と思えることが増える授業を、私達教師はめざしていくべきである。